

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

			茨城県水産振興課		
目的	本県における沿岸漁業収益の増加・安定化を図り、本県水産業の競争力を強化する。				
目標	栽培漁業センターにおいて放流用種苗を安定的に増産・放流し、水産資源の維持増大を図る。	28-1			
事業実施主体	茨城県				
実施地区	鹿島地区				
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度			
	平成28年度～平成30年度	令和3年度			
助成金額	56,106,000円				
事業計画の内容	放流用種苗生産のための取水施設を改良整備し、種苗の生産能力を向上、安定化させる。				
評価	取組の目標（KPI）		目標年（令和3年度）の漁業所得を基準年の漁業所得の10%増とする。		
		基準年	平成26年度における漁業所得2,046千円		
		現状値	5,731千円	増加率	180%
		目標値	2,251千円	増加率	10%
	成果目標		令和3年度のヒラメ、マコガレイ、アワビの種苗生産尾数		
		現状値	種苗生産尾（個数）数：ヒラメ1,012千尾/年、マコガレイ246千尾/年、アワビ300千個/年		
		目標値	種苗生産尾（個数）数：ヒラメ850千尾/年、マコガレイ200千尾/年、アワビ300千個/年		
	（1）現状値の説明		令和3年度におけるヒラメ、マコガレイ、アワビ種苗の生産尾数は、いずれの魚種においても、目標値以上の生産尾（個数）数を達成した。		
	（2）地域への経済効果（ハード事業のみ）		主要な栽培漁業対象種であるヒラメとアワビについては施設整備前よりも、マコガレイについては新規生産計画以上に種苗を生産・放流したことで、当該水産資源の下支えが図られ、本県沿岸漁業の経営安定に寄与することができた。		
	（3）所見		本県の主要な栽培漁業対象種であるヒラメとアワビ、また新たに栽培漁業対象種となったマコガレイの大量放流を実現できたことで、漁業生産量の維持・増大が期待される。引き続き安定した種苗の生産・放流を行い、栽培漁業による漁家経営の安定に貢献したい。		
（4）評価機関への意見等		-			
今後の改善方向等に関する分析		-			